

スポーツ系大学学生における喫煙の実態と競技パフォーマンスに関する調査

加川 涼真 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)
指導教員 小松 猛

キーワード：タバコ，パフォーマンス，喫煙

1. 緒言

以前の日本では飲食店や公園のベンチ，路上での歩きながらはもちろん，電車の中ですら喫煙が当たり前の時代があった．しかし最近では，たばこにおける有害をアピールする声が増えた影響もあって，喫煙をする場所も喫煙者も減少の一途を辿っている．しかし，スポーツ競技においてオリンピック日本代表の選手が喫煙をしていたが，禁煙宣言をして数年後には記録が低下したという話がある．

そこで本研究では，スポーツ系大学の学生における喫煙の実態とタバコに対するイメージ，競技パフォーマンスに関する調査を目的とする．

2. 方法

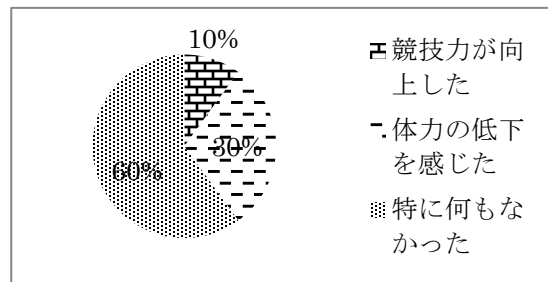
本研究の調査対象は，複数のスポーツ・体育系大学の学生 46 人（男子 40 人，女子 6 人）の 1～4 年生（18～22 歳；各学年または各年齢の人数も記載する）にアンケートを配布する．アンケート回収後集計し，スポーツ・体育系大学に通う学生の喫煙の実態と，喫煙者と非喫煙者のタバコに対するイメージや，喫煙をしているアスリートのパフォーマンスにタバコがどう影響しているのかを調査するために，以下の項目をアンケートの内容とした．

①アンケート調査は，内容:喫煙に関するアンケートを喫煙者用,非喫煙者用の 2 種類を作成し大学名と氏名は無記名で調査を実施した．

②アンケート終了後，回答者に対して 5 分程度のインタビューを行った．インタビューは，アンケートの回答で疑問に感じた回答部分を更に詳しく聞くために実施した．

3. 結果

「タバコを吸う事で競技にどのような影響がありましたか」の回答では「競技力(成績)が向上した」10%，「体力(競技力や成績)の低下を感じた」30%，「特に何もなかった」60%だった．競技力が向上したと回答した割合より，低下したと回答した割合の方が上回った(図 1)．



(図 1)タバコを吸う事で競技にどのような影響があったか

4. まとめ

本アンケートで集計した，スポーツ・体育系大学生の喫煙率は，全体の約 3 分の 1 の割合だった．喫煙に対するイメージ，メリットやデメリットは喫煙者，非喫煙者関係なくほとんど同じ回答だった．喫煙者は，競技パフォーマンスや競技成績よりも，喫煙者同士のコミュニケーションや，ストレス解消の快楽を優先する事がわかった．非喫煙者は，喫煙に対して興味はあるが体や健康に悪いリスク，タバコ代のコストの問題で喫煙をしないことがわかった．

引用・参考文献

「成人喫煙率 (JT 全国喫煙者率調査)」
<http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd090000.html>